



OSAKA SODA



2024年3月期 決算および 2025年3月期 事業計画説明会

2024年5月30日
株式会社 大阪ソーダ

はじめに：進捗状況ご報告

- AC製造設備不具合を受け、復旧計画ならびにトラブル撲滅に向けた対策を推進

現在までの経過

	AC製造設備の状況
2023年 4月4日	水島工場アリルクロライド（AC）製造設備主要機器に不具合発生
5月8日	部分復旧により一部の製品で生産を再開
6月13日	稼働率を70%に復旧
7月27日	AC製造設備主要機器の不具合が再発
8月11日	部分復旧により一部の製品で生産を再開
11月21日	稼働率を70%に復旧、現在も安定稼働を継続
2024年 6月末	AC製造設備の復旧工事を実施

設備管理強化の進捗

- 中期経営計画「Shape the Future-2025」に設備管理強化策を盛り込む
- 生産に甚大な影響を及ぼす最重要機器を選定し、予備機・予備品の拡充を実施
- 2025年度までの維持投資計画の見直しをプロジェクトを立上げ推進中
- 不具合の発生した機器について適正運転範囲の見直しを実施
- AC製造設備の複線化、予備機設置を立案、設備改造に着手

皆さまには、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしておりますが
引き続き、全面復旧に向けて取り組んでまいります。

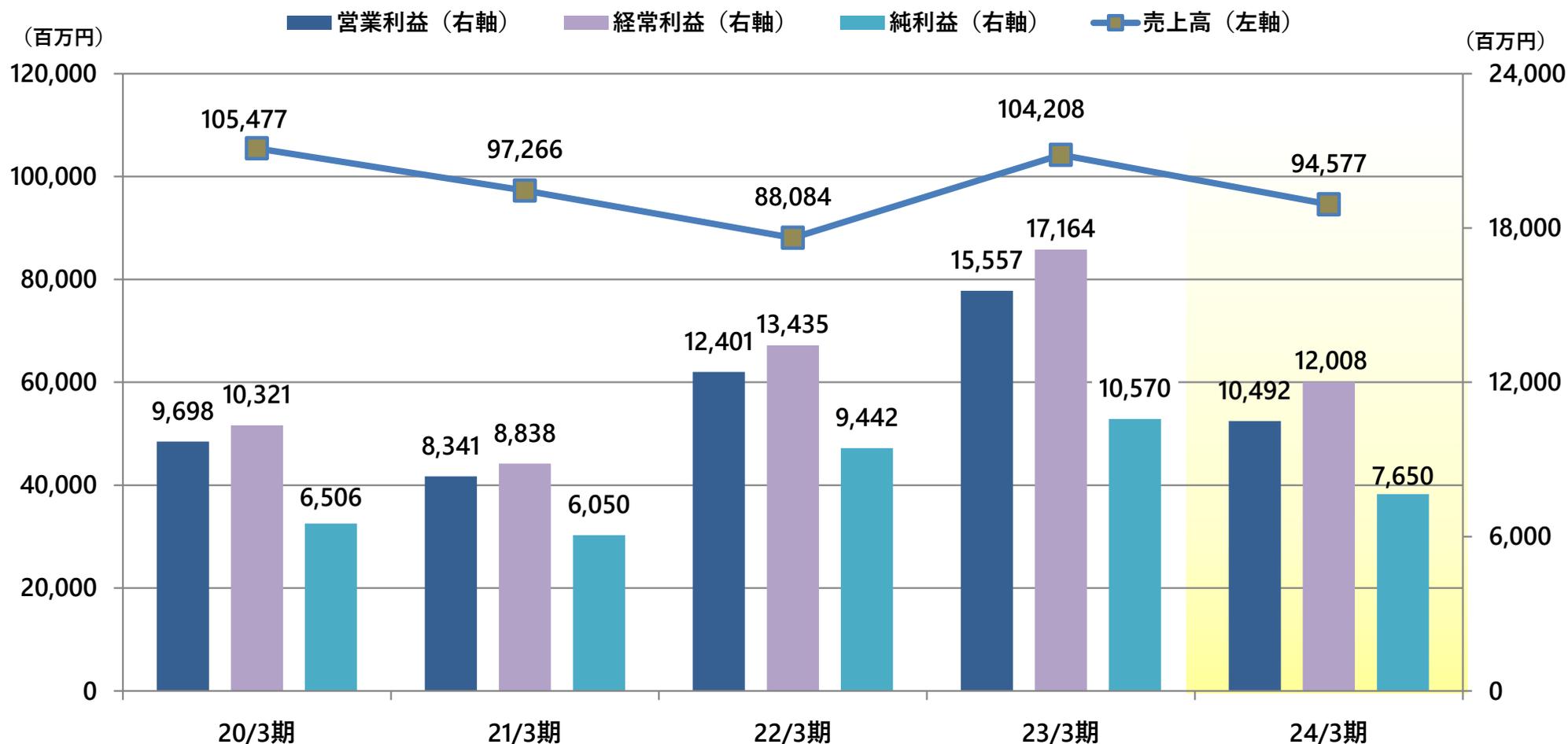


2024年3月期 業績

業績推移 (20/3期～24/3期)

■ AC製造設備不具合および国内外での需要低迷が期を通じて影響し減収減益

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移



(※) 22/3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用

2024年3月期 概況

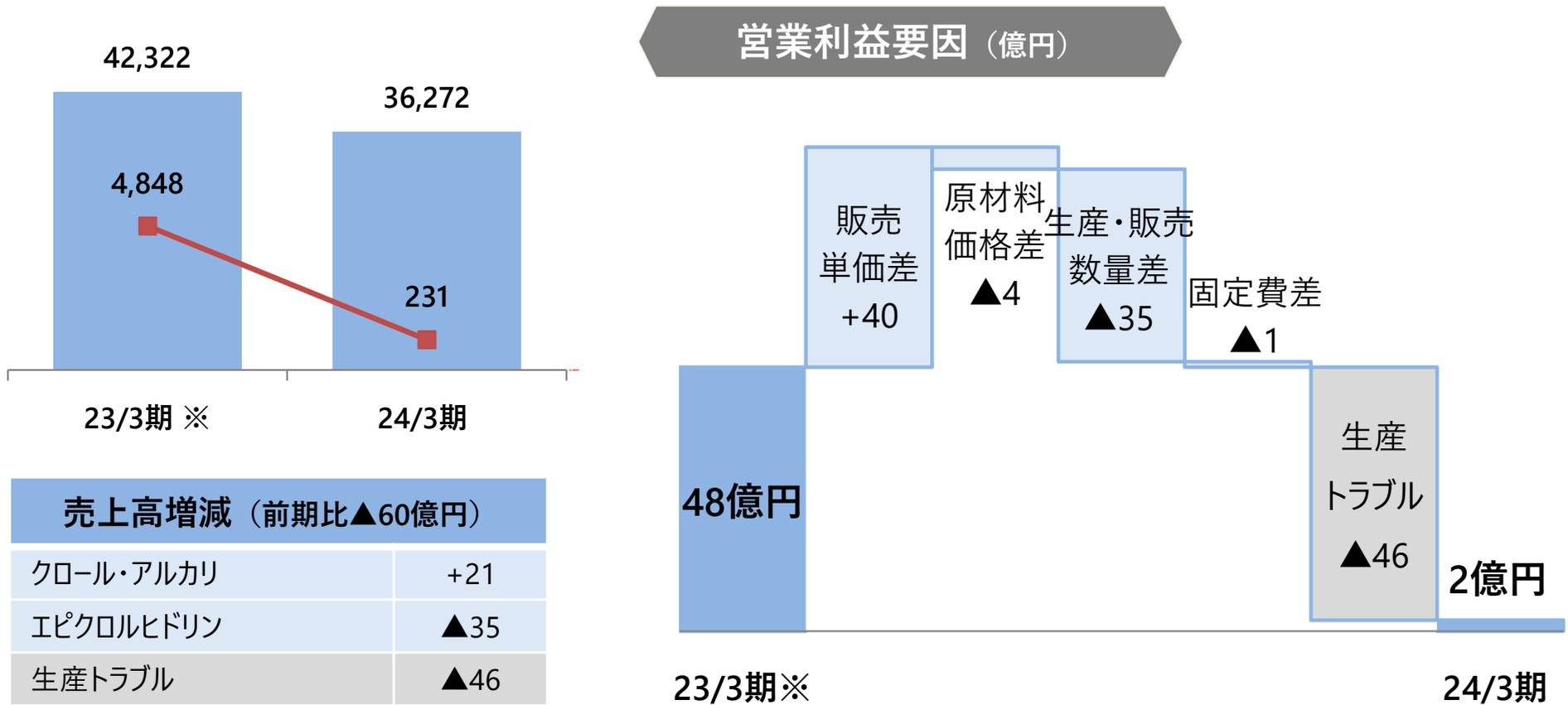
- 生産トラブルの影響は、売上高▲52億円、営業利益▲51億円となった
- 営業利益では、3期連続で100億円超を達成、安定した収益基盤を構築

(百万円)	23年3月期		24年3月期		増減		計画	達成率 (%)	計画差異
		構成比 (%)		構成比 (%)	金額	率(%)			
売上高	104,208	—	94,557	—	▲9,651	▲9.3	105,000	90.1	▲10,443
営業利益	15,557	14.9	10,492	11.1	▲5,065	▲32.6	10,000	104.9	492
経常利益	17,164	16.5	12,008	12.7	▲5,156	▲30.0	11,100	108.2	908
四半期純利益	10,570	10.1	7,650	8.1	▲2,920	▲27.6	7,500	102.0	150
1株当たり 当期純利益	428.43円	—	300.84円	—	—	—	—	—	—
海外売上高	39,675	38.1	32,327	34.2	▲7,348	▲18.5	—	—	—
前提条件	23年3月期		24年3月期						
U S \$ / 円	134円		143円						
ユ - 円 / 円	140円		155円						
ナフサ (円/KL)	75,500円		69,000円						

セグメント（基礎化学品）

- クロール・アルカリ製品は、原燃料価格上昇にともなう価格改定が寄与
- エピクロルヒドリンは、トラブルによる出荷調整、エポキシ樹脂の需要低迷で数量が減少

■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）

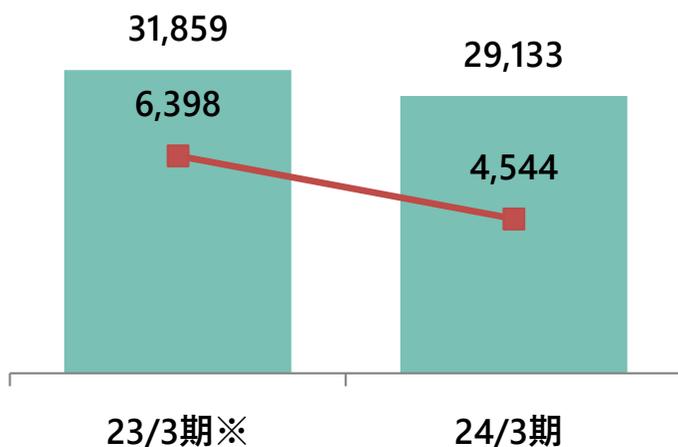


※23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた数値です。

セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、自動車生産台数の回復にともない需要が増加、特にアクリルゴムでは国内外で新規採用が進み、アジアを中心に伸長
- 合成樹脂は、国内・欧米で需要が低迷するも、中国向けが好調に推移
- アリルエーテル類は、トラブルによる出荷調整や、欧米・中国の塗料用途でシランカップリング剤の需要低下、市況軟化が影響

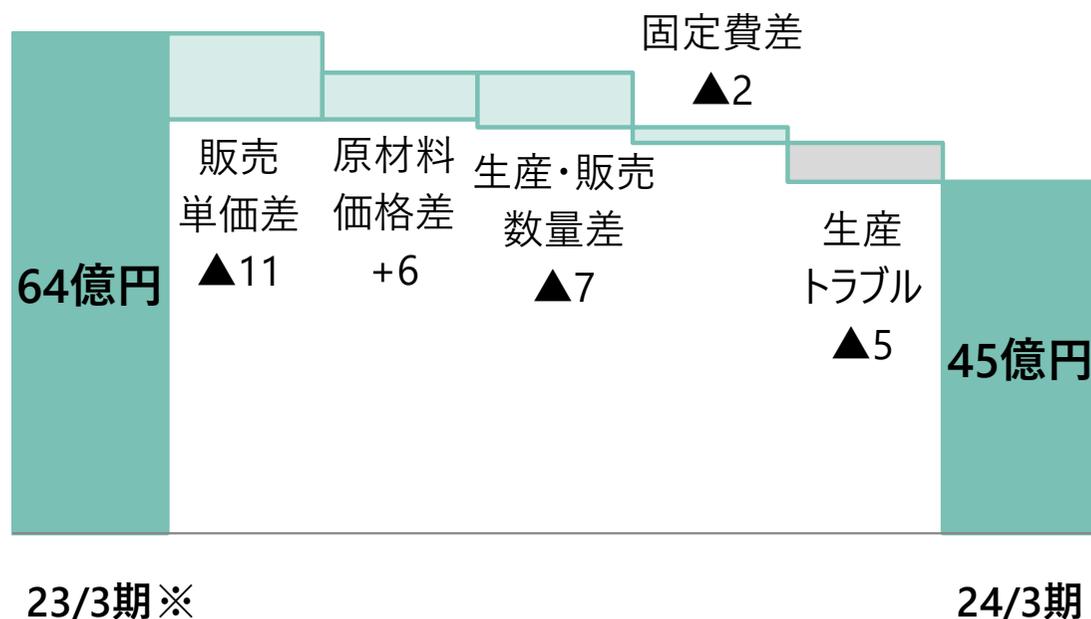
売上高 営業利益（百万円）



売上高増減（前期比▲27億円）

合成ゴム・合成樹脂	+8
アリルエーテル類	▲18
その他	▲11
生産トラブル	▲6

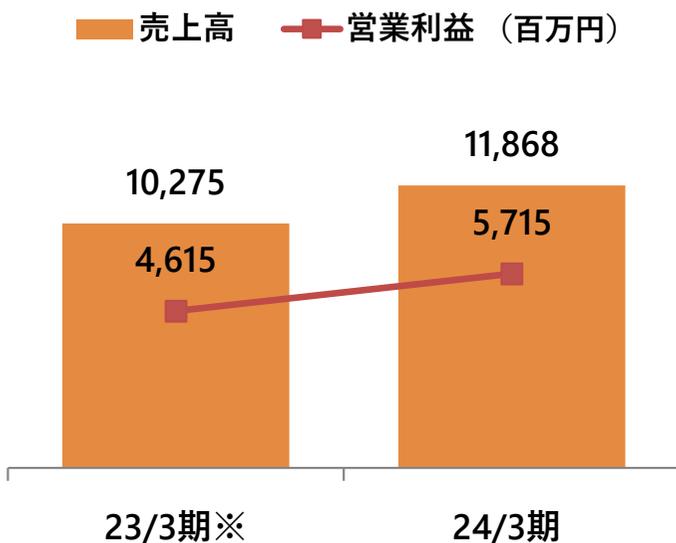
営業利益要因（億円）



※23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた数値です。

セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、医薬品精製材料では、欧米、アジア向け糖尿病治療薬用途等の需要が拡大
- 設備増強工事は、計画通り順調に進む
（松山工場：24年9月完工予定、尼崎工場：26年内完工予定）
- 医薬品原薬・中間体は、松山工場に新設した大型設備を活用し、核酸医薬品原薬、骨粗鬆症治療薬原薬、抗がん剤中間体の販売が拡大

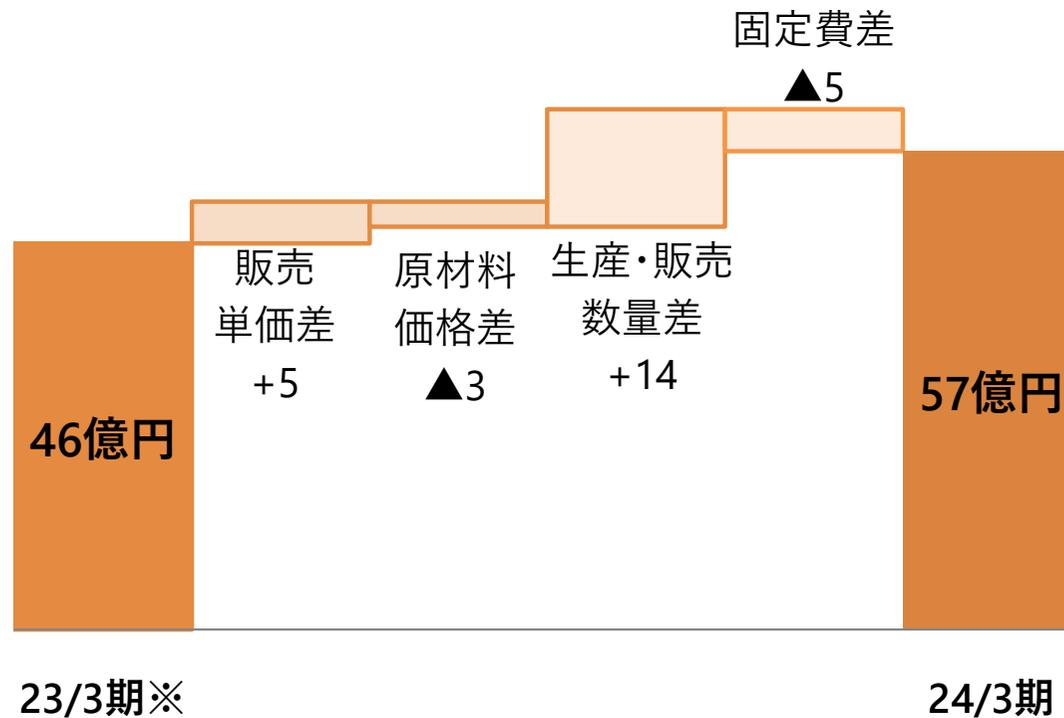


売上高増減（前期比+16億円）	
クロマト*	+11
医薬品原薬・中間体	+5

* 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

※23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた数値です。

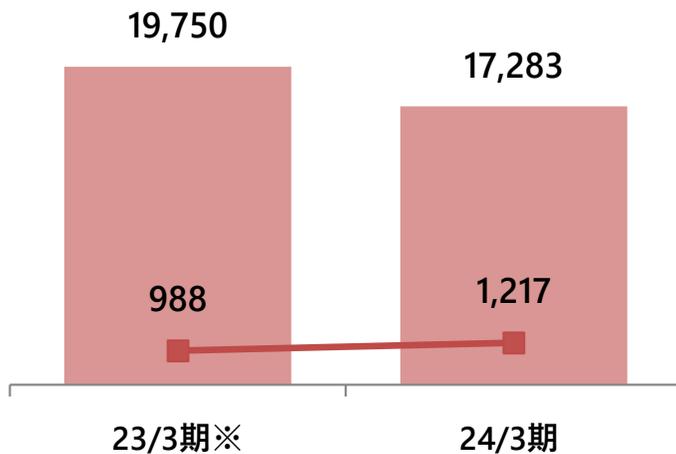
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- コンシューマープロダクツでは、前期に引き続き生活関連商品の販売が堅調
- 特殊ポリマーでは、コーティング材料の販売が堅調
- 機能製品では、ガラス繊維等を中心に電子材料および自動車向け商材が低調

■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比▲24億円）

生活関連商品	+3
特殊ポリマー材料	+4
機能製品	▲11
基礎化学製品ほか	▲20

営業利益要因（億円）



※23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた数値です。

貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 自己資本比率は引き続き70%台と高水準を維持
- 能力増強投資、設備管理強化を含む維持・効率化投資が可能な強固な財務基盤を維持

(百万円)	22/3期	23/3期	24/3期	前期比
総資産	129,159	138,029	150,541	12,512
純資産	83,896	99,543	109,765	10,222
自己資本比率	64.9%	72.1%	72.9%	0.8%
有利子負債	15,905	7,664	7,630	▲34

(百万円)	22/3期	23/3期	24/3期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,378	9,354	8,597	▲757
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲6,961	▲5,380	▲4,263	1,117
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,646	▲4,596	▲3,199	1,397
現金および現金同等物	37,016	36,843	38,432	1,589



2025年3月期 業績予想

中計の進捗（トピックス）

- 基礎化学品は、安定稼働・効率的生産に向けた設備管理強化に注力
- 機能化学品は、グローバルニッチトップ製品の市場深耕、新規用途開拓
- ヘルスケアは、将来の需要増加に備えた生産能力増強を推進、新事業展開へ着手

基礎化学品

- 設備管理強化（予備品拡充等）
- 工程改良・生産効率改善に向けた設備更新計画を推進
- 電解4工場のバランス管理による生産最適化に注力
- 物流効率化を含むサプライチェーンの見直し
- 新規塩化物需要の取り込み

機能化学品

- 合成ゴムの新規用途開拓、技術支援体制強化
- アクリルゴム新規グレードの投入でシェア拡大
- ノンフタレート型アリル樹脂による欧米向け食品パッケージ印刷需要の取り込み
- アリルエーテル類の増設時期の検討

ヘルスケア

- シリカゲル増設計画を推進
- 三菱ケミカル(株)とポリマーゲルの開発・販売で提携、サンプルワーク等の営業活動を推進
- 新規カラム（サイズ排除・高耐アルカリ性）の製造・販売を開始
- 医薬品原薬・中間体の次期増強計画の検討（高薬理活性医薬品設備の実施時期見直し含む）
- バイオ医薬品事業への参入に向けてベンチャーとの共同開発に着手

中計の進捗（トピックス）

- 研究開発は、開発スピードを向上させ、新製品を継続的に上市できる体制構築を目指す
- サステナビリティでは、各方針、環境データの公表をはじめ、情報開示の充実を図る
- 投資計画については、ヘルスケアを中心とした戦略投資、設備管理強化に向けた維持効率化投資を実施

研究開発

- 電池研究棟が完成、全固体電池用超高イオン伝導性ポリマーの開発を加速
- 銀ナノ粒子、事業化ステージに
- シリカゲル（サイズ排除・高耐アルカリ）の上市
- 植物性乳酸菌OS-1010、機能性食品素材の販売開始

サステナビリティ

- 人権方針を公表
- 購買・調達方針を公表
- GHG排出量の算出範囲を拡大
- 社員エンゲージメント向上の取り組みを開始
- 統合報告書を発刊

投資

- 市場の立ち上がり状況や需要動向の変化により一部で投資時期の見直しを実施
- 24年度は、シリカゲルの増設や基幹系システムを見込む

	23年度	24年度	合計
戦略投資	38億円	50億円	88億円
維持・効率化投資	34億円	10億円	44億円
合計	72億円	60億円	132億円

2025年3月期 事業計画

- 当期は、営業利益および当期純利益で過去最高の更新を計画
- 地政学的リスク、世界的な金融引き締め等、景気下振れリスクを懸念
- 一方、6月末以降の生産正常化、緩やかな事業環境の改善により業績回復を見込む

	24年3月期		25年3月期計画		増減	
	(百万円)	構成比(%)		構成比(%)	金額	率(%)
売上高	94,557	—	103,000	—	8,443	108.9
営業利益	10,492	11.1	16,000	15.5	5,508	152.5
経常利益	12,008	12.7	16,800	16.3	4,792	139.9
当期純利益	7,650	8.1	11,500	11.2	3,850	150.3
1株当たり 当期純利益	300.84円	—	452.21円	—	—	—
海外売上高	32,327	34.2	40,700	39.5	8,373	5.1
前提条件	24年3月期		25年3月期計画			
U S \$ / 円	143円		135円			
ユ - 円 / 円	155円		150円			
ナフサ (円 / KL)	69,000円		62,000円			

セグメント別売上高・営業利益計画

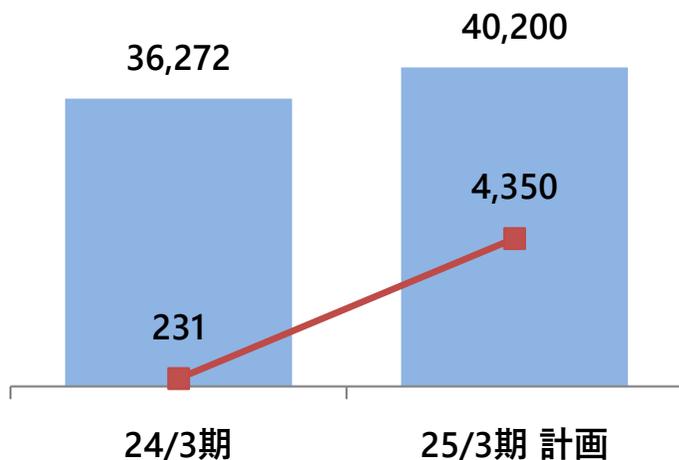
- 基礎化学品は、2Qから生産が正常化するも、期を通じて厳しい需要環境が続く
- 機能化学品は、自動車産業の回復が持続、電子材料の緩やかな需要回復を見込む
- ヘルスケアは、前期に引き続き需要拡大を背景に好調に推移

		24年3月期			25年3月期計画			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
		(百万円)								
売上高	基礎化学品	18,266	18,006	36,272	19,340	20,860	40,200	1,074	2,854	3,928
	機能化学品	13,477	15,656	29,133	15,250	17,000	32,250	1,773	1,344	3,117
	ヘルスケア	5,372	6,496	11,868	6,350	6,800	13,150	978	304	1,282
	商社部門ほか	9,507	7,776	17,283	9,060	8,340	17,400	▲447	564	117
	合計	46,622	47,934	94,557	50,000	53,000	103,000	3,378	5,066	8,443
営業利益	基礎化学品	59	172	231	1,750	2,600	4,350	1,691	2,428	4,119
	機能化学品	2,107	2,437	4,544	2,550	3,050	5,600	443	613	1,056
	ヘルスケア	2,661	3,054	5,715	2,900	3,300	6,200	239	246	485
	商社部門ほか	698	519	1,217	586	634	1,220	▲112	115	3
	全社・消去	▲609	▲606	▲1,215	▲686	▲684	▲1,370	▲77	▲78	▲155
	合計	4,917	5,575	10,492	7,100	8,900	16,000	2,183	3,325	5,508

セグメント（基礎化学品）

- 基礎化学品全般では、AC製造設備不具合の解消により生産が正常化
- クロール・アルカリ製品は、原燃料価格の変動に対応した販売政策、電解の効率的運営
- エピクロルヒドリンでは、生産トラブル解消により採算が改善する一方、海外市況低迷による影響を織り込む

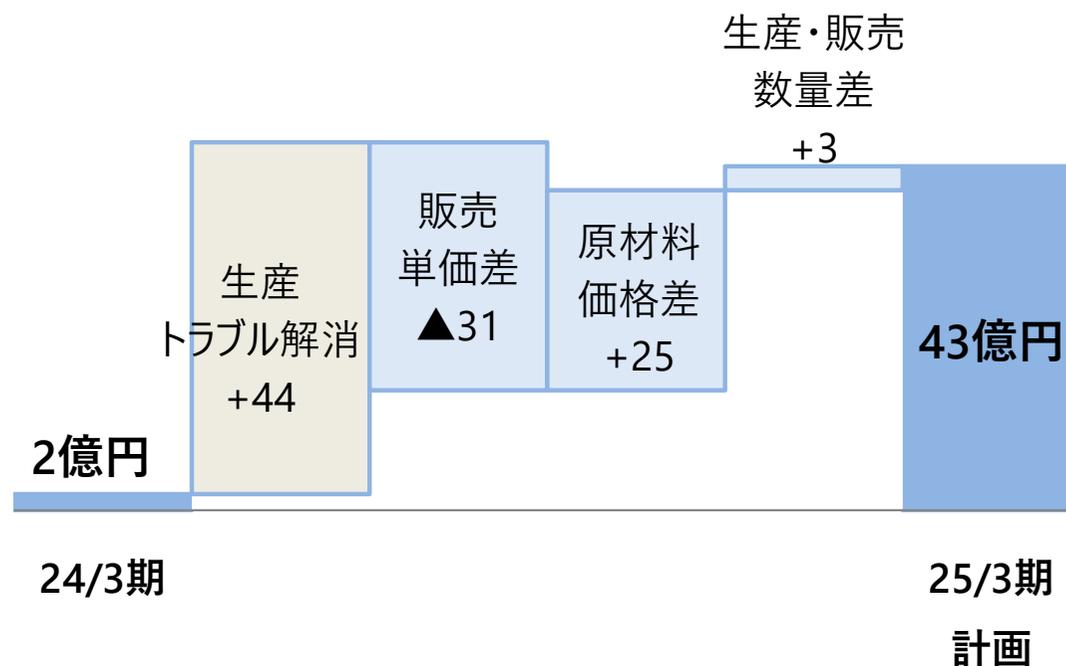
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比+39億円）

クロール・アルカリ	+0
エピクロルヒドリン	▲7
生産トラブル解消	+46

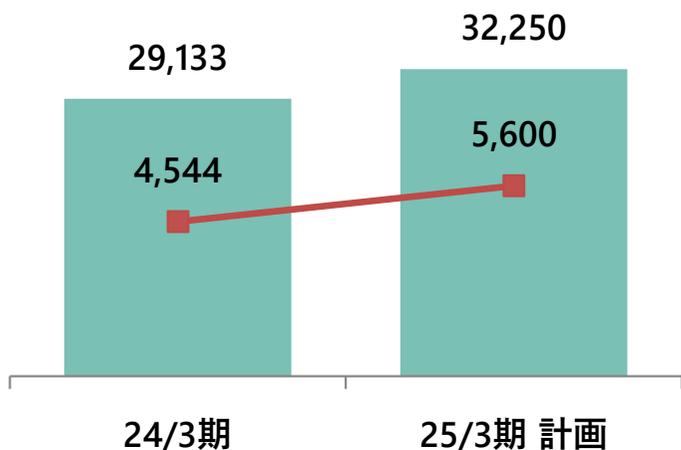
営業利益要因（億円）



セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、自動車生産台数の回復基調が持続、エピクロルヒドリンゴムでは他材料からの代替需要の取り込み、アクリルゴムでは国内外での新規採用の獲得を織り込む
- 合成樹脂は、中国を中心としたUVオフセットインキ向けのシェア拡大を図る
- アリルエーテル類は、電子材料を中心にシランカップリング剤の緩やかな需要回復を想定

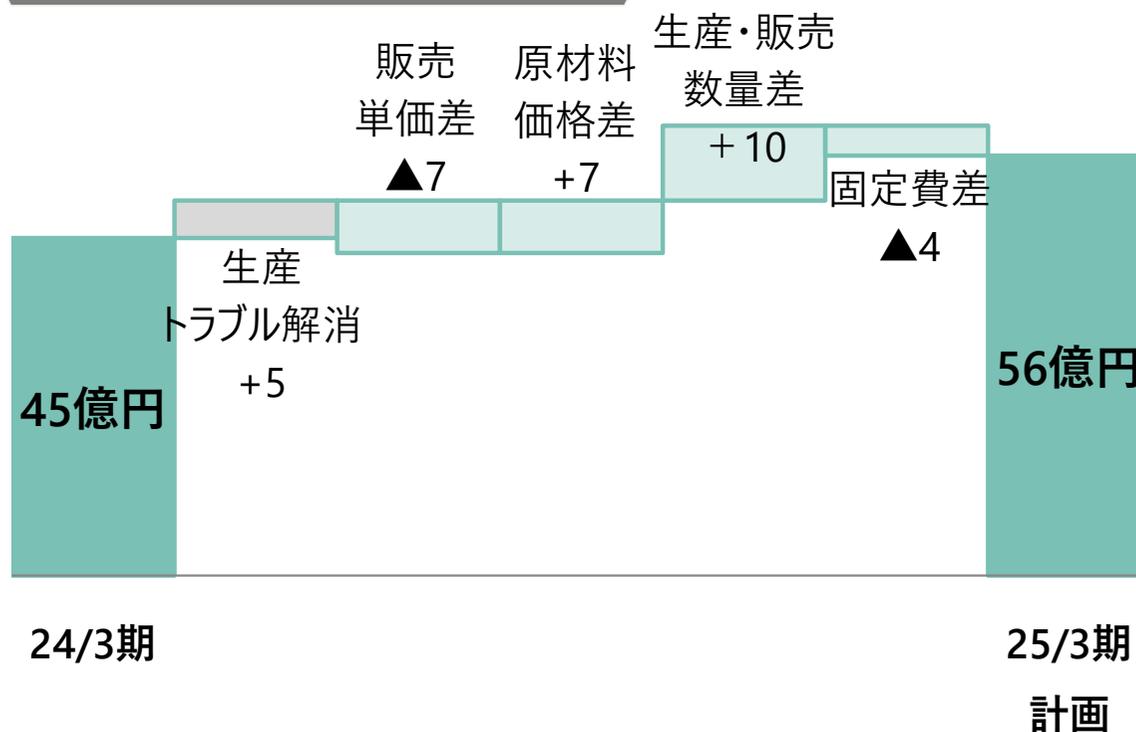
■ 売上高 ■ 営業利益（百万円）



売上高増減（前期比+31億円）

合成ゴム・合成樹脂	+9
アリルエーテル類	+6
その他	+10
生産トラブル解消	+6

営業利益要因（億円）



セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、糖尿病治療薬ならびに急拡大する肥満治療薬向けの販売を拡大、新規顧客の取り込みにより、さらなるシェア獲得を目指す
- 医薬品原薬・中間体は、原薬調達の国内回帰にともなう新規需要の獲得を図る

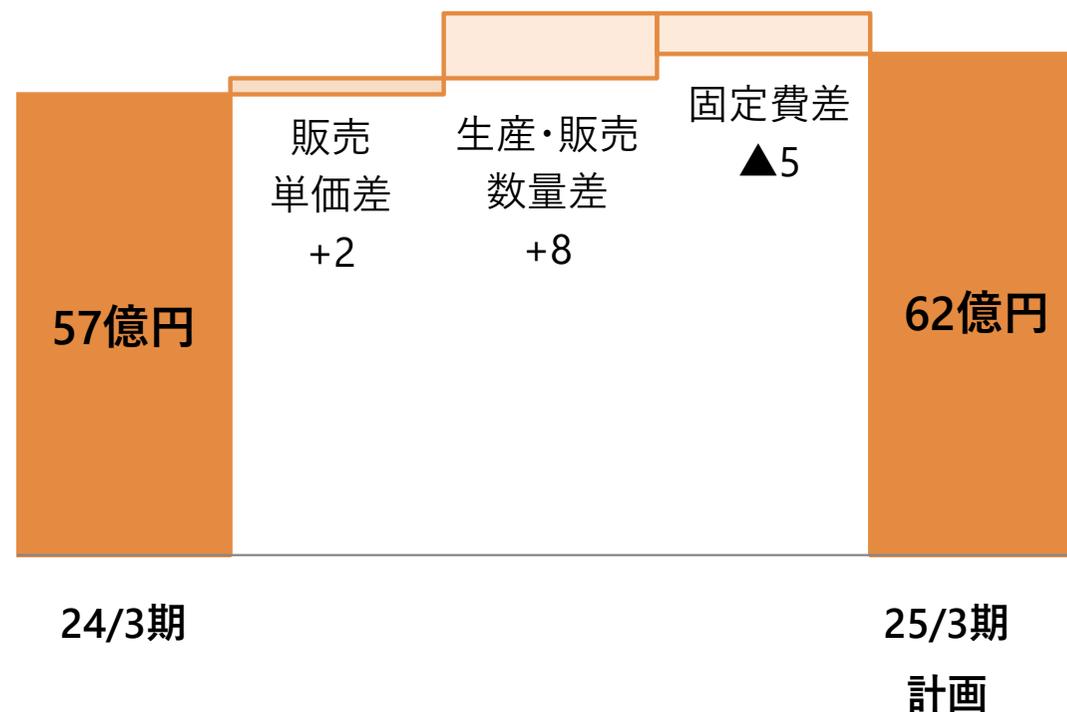


売上高増減（前期比+12億円）

クロマト*	+11
医薬品原薬・中間体	+1

* 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

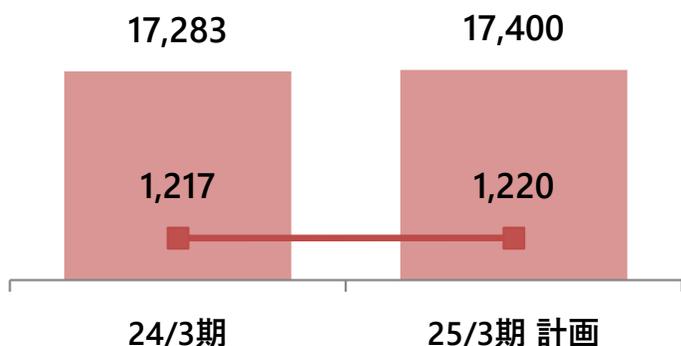
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- 機能製品では、ガラス繊維等で自動車関連を中心とした需要回復を見込む
- 基礎化学製品は、厳しい事業環境を想定、採算性を考慮した販売政策を推進

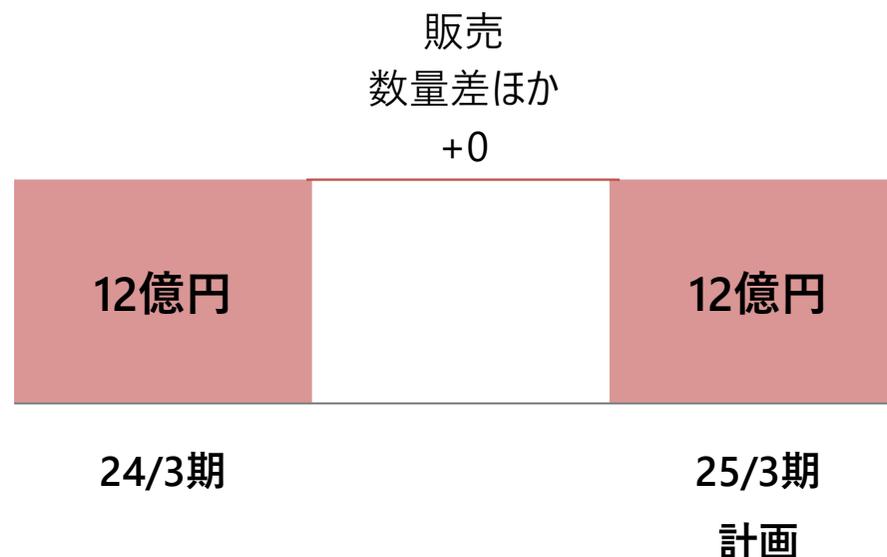
売上高 営業利益（百万円）



売上高増減（前期比+1億円）

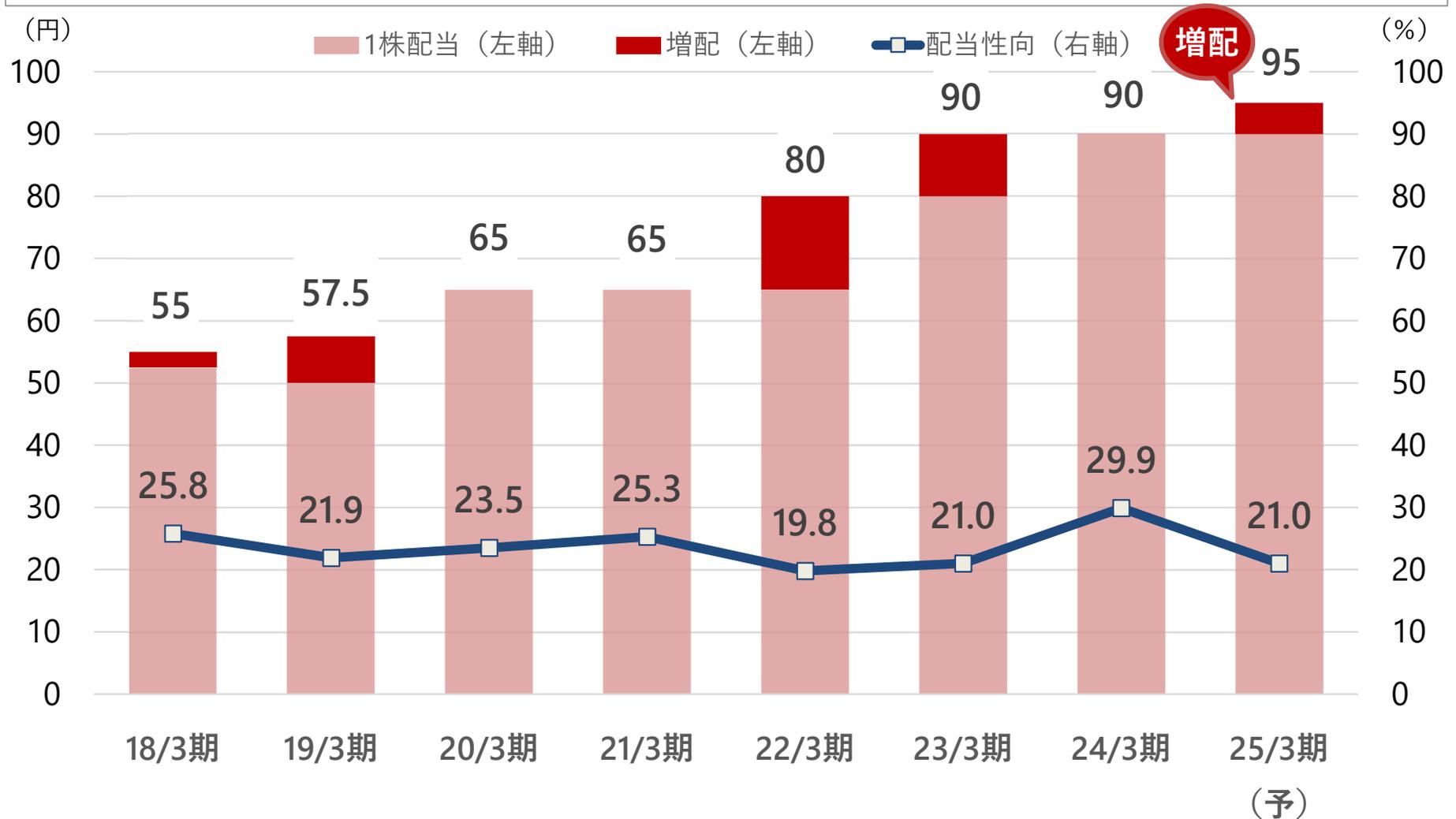
機能製品	+3
基礎化学製品他	▲2

営業利益要因（億円）



株主還元

- 24年3月期は、前期に増配した年間配当90円を継続、自己株式取得（8億円）を実施
- 25年3月期は、年間配当95円（前期比+5円）とする方針
- 中期経営計画期間（2023～2025年度）は、総還元性向40%を目指す





シリカゲルの需要背景と増強計画

医薬品精製用シリカゲルの需要背景

- 当社のシリカゲルは、低分子・中分子医薬品の精製工程に適した素材
- 糖尿病治療薬および肥満治療薬向け精製用途として急速に需要が拡大
- 現中計（23－25年度）では、将来のさらなる需要増に備え設備増強を実施
- グローバルオペレーションやブランディング強化によるグローバルデファクトスタンダード化に取り組む

中計（23－25年度）における事業環境

医薬品精製材料
(シリカゲル)



- 糖尿病治療薬（GLP-1受容体作動薬含む）は年率10%で伸長
- 肥満治療薬は高い成長ポテンシャルを持続、バイオシミラーによる市場参入を予測
- 中分子医薬品の精製市場が成長



シリカゲル新製造棟完成予定図
(松山工場)

新製造棟建設

事業所：松山工場

投資額：約30億円

完成予定：2024年9月

商業生産

開始予定：2026年～

製造能力：1.5倍*



シリカゲル製造設備（尼崎工場）

製造棟新增設

事業所：尼崎工場

投資額：約30億円

完成予定：2026年内

商業生産

開始予定：2026年度～

製造能力：2倍*

* 現2023年度製造能力比

シリカゲルの増強計画と需要動向

- 2026年度に、松山および尼崎の新製造設備で商業生産を開始、製造能力は現有の2倍に
- 2026年度までは、市場拡大に合わせて運転時間延長等の緊急増産で対応
- 今後の需要動向について確度の高い情報を収集中、次期増設計画に反映する方針

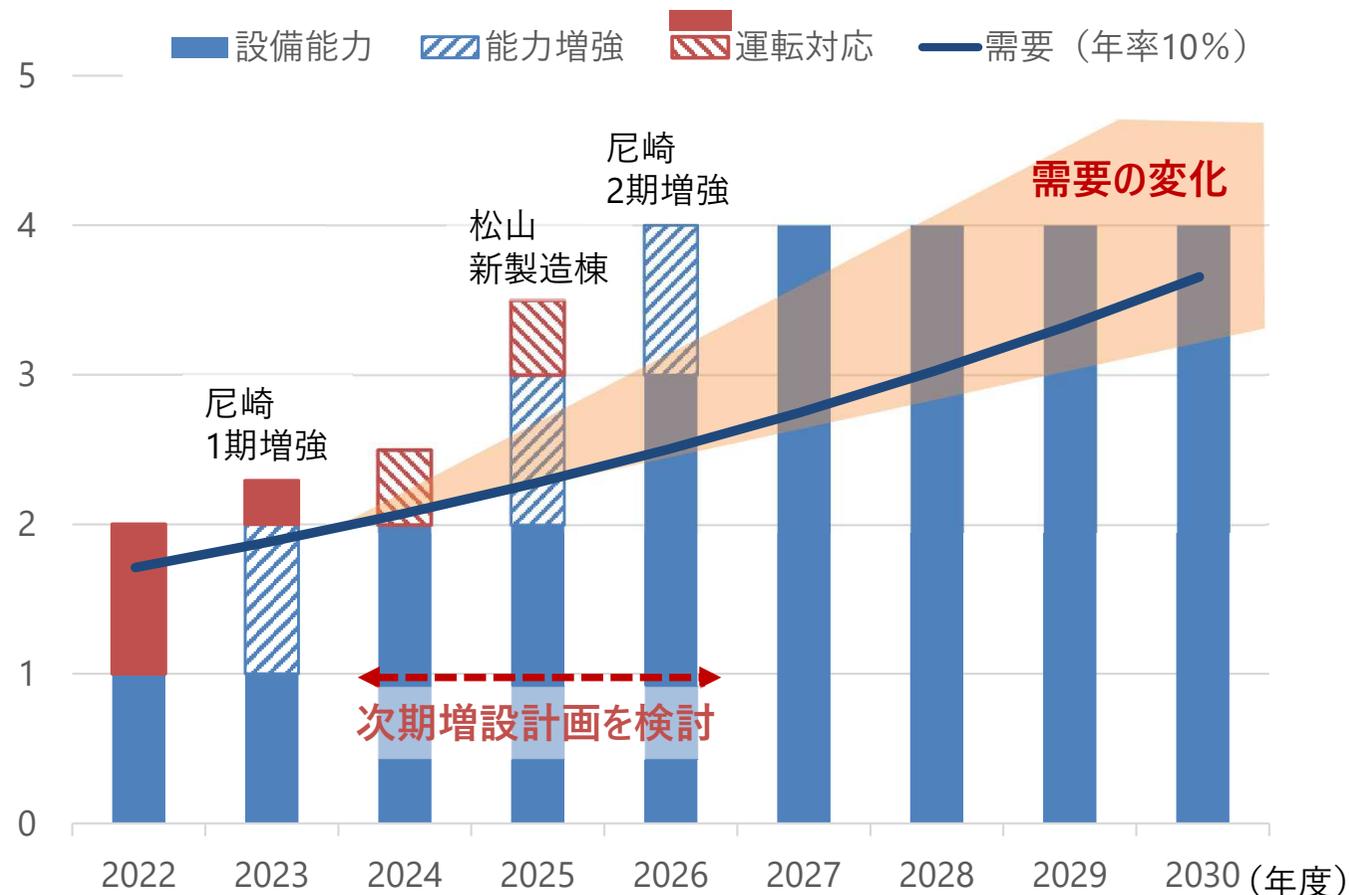
需要環境の変化

- 肥満治療薬の市場拡大が加速
- 糖尿病治療薬が慢性的な品不足に
- バイオシミラーの市場参入が早期化



需要予測を再検証中

(設備能力：倍)





OSAKA SODA

お問合せ先：
株式会社 大阪ソーダ
経営企画部 広報グループ
TEL：06-6110-1560

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。